

農林海洋科学専攻 カリキュラム・ポリシー

農林海洋科学専攻のカリキュラム・ポリシーは、以下のとおりである。

【教育内容】

専門領域の幅広く、かつ高度な知識・技能を習得するための概論、共通科目を配置するとともに、修士論文作成のための研究指導を行う。

[知識・理解]

専門科目に講義科目群(特論)を配置し、選択履修させることにより、農林資源環境科学、農芸化学又は海洋資源科学における専門分野の学問について、高度で最先端の知識を修得させる。専攻共通科目に「農林海洋科学総論」を必修科目として配置し、専門領域の課題に取り組むにあたり、農学・海洋科学の連携による研究事例とその成果について理解させる。

[思考・判断]

専門科目に演習科目群(演習Ⅰ～Ⅳ)を配置し、最新の研究論文等を教材として用い少数で密度の高いディスカッションを行わせることにより、検討すべき諸問題とその対策について、論理的に考察する能力を涵養する。専攻共通科目に「海洋・陸域の環境と資源の科学」、「実践里海再生学特論」を必修科目として配置し、農学・海洋科学の諸分野の連携も視野に含めた論理的な考察をする能力を涵養する。

[関心・意欲]

必修の専攻共通科目である「海洋・陸域の環境と資源の科学」、「実践里海再生学特論」において、農学と海洋科学の連携に関心を持たせ、専門領域における課題解決に応用する意欲を持たせる。

[態度]

必修の専攻共通科目である「農林海洋科学総論」及び「農林海洋科学特別研究Ⅰ・Ⅲ」において、研究者倫理に関する授業を実施し、高い倫理意識のもとに、修士論文研究を遂行する態度を育む。

[技能・表現]

専攻共通科目に「農林海洋科学特別研究Ⅰ～Ⅳ」を必修科目として配置し、コミュニケーション能力を育成するとともに、専門領域の課題に取り組むにあたり必要となる技術を修得させる。

【教育方法】

(科目履修)

高度な専門的知識を修得するとともに、論理的思考や表現力を涵養するために、講義科目、演習形式の授業を行う。

(研究指導)

複数指導教員制のもと、1年間の研究計画に基づいてその進捗状況等を把握し、学生が自

発的に研究に取り組めるための指導を行う。

【教育評価】

(学修評価)

学修の評価にあたっては、本学が定める成績評価基準に基づいて評価を行う。各科目の学修成果は、授業科目の到達目標の達成度をシラバスに記載されている評価方法によって、筆記試験、レポート、発表、授業への参加度、演習・実験成果等で評価を行う。

修士論文の評価について、本専攻の論文審査規定に基づいて評価を行う。学位の授与にあたっては、学位授与の方針に基づき、論文審査（課題設定、先行研究の検討、適切な研究方法、独創性、研究倫理の履行等の観点からの評価）、関連科目の到達度評価、最終試験（筆記あるいは口述）により総合的に評価する。

(カリキュラム評価)

学生の学修成果や専門領域の研究動向、学外からの評価、意見を参照しつつ、毎年カリキュラム評価を実施し、必要に応じて改善を行う。

農林海洋科学専攻各コースのカリキュラム・ポリシーは、以下の通りである。

■農林資源環境科学コース

【教育内容】

専門領域の高度な知識・技能を習得するための概論、共通科目を配置するとともに、修士論文作成のための研究指導を行う。

[知識・理解]

専門科目に講義科目群（特論）を配置し選択履修させるとともに、コース必修科目として、「農林資源環境科学特論Ⅰ、Ⅱ」を配置することにより、暖地農学、森林科学、自然環境学、生産環境管理学等の専門領域の学問について、高度で最先端の知識を修得させる。専攻共通科目に「農林海洋科学総論」を必修科目として配置し、農学・海洋科学の連携による研究事例とその成果を理解させる。

[思考・判断]

専門科目に演習科目群（演習Ⅰ～Ⅳ）を配置し、最新の研究論文等を教材として用い少数で密度の高いディスカッションを行わせることにより、検討すべき諸問題とその対策について、論理的に考察する能力を涵養する。専攻共通科目に「海洋・陸域の環境と資源の科学」、「実践里海再生学特論」を必修科目として配置し、農学・海洋科学の諸分野の連携も視野に含めた論理的な考察をする能力を涵養する。

[関心・意欲]

必修の専攻共通科目である「海洋・陸域の環境と資源の科学」、「実践里海再生学特論」において、農学と海洋科学の連携に関心を持たせ、暖地農学、森林科学、自然環境学、生産環境管理学等の専門領域における課題解決に応用する意欲を持たせる。

[態度]

必修の専攻共通科目である「農林海洋科学総論」及び「農林海洋科学特別研究Ⅰ・Ⅲ」において、研究者倫理に関する授業を実施し、高い倫理意識のもとに、修士論文研究を遂行する態度を育む。

[技能・表現]

専攻共通科目に「農林海洋科学特別研究Ⅰ～Ⅳ」を必修科目として配置し、コミュニケーション能力を育成するとともに、暖地農学、森林科学、自然環境学、生産環境管理学等の専門領域の課題に取り組むにあたり必要となる技術を修得させる。

【教育方法】

(科目履修)

高度な専門的知識を修得するとともに、論理的思考や表現力を涵養し調査や実験の能力を高めるために、講義科目、演習形式の授業を行う。

(研究指導)

複数指導教員制のもと、1年間の研究計画に基づいてその進捗状況等を把握し、学生が自発的に研究に取り組めるための指導を行う。

【教育評価】

(学修評価)

学修の評価にあたっては、本学が定める成績評価基準に基づいて評価を行う。各科目の学修成果は、授業科目の到達目標の達成度をシラバスに記載されている評価方法によって、筆記試験、レポート、発表、授業への参加度、演習・実験成果等で評価を行う。

修士論文の評価について、本専攻の論文審査規定に基づいて評価を行う。学位の授与にあたっては、学位授与の方針に基づき、論文審査（課題設定、先行研究の検討、適切な研究方法、独創性、研究倫理の履行等の観点からの評価）、関連科目の到達度評価、最終試験（筆記あるいは口述）により総合的に評価する。

(カリキュラム評価)

学生の学修成果や専門領域の研究動向、学外からの評価、意見を参照しつつ、毎年カリキュラム評価を実施し、必要に応じて改善を行う。

■農芸化学コース

【教育内容】

専門領域の高度な知識・技能を習得するための特論・実験科目を配置するとともに、修士論文作成のための研究指導を行う。

[知識・理解]

専門科目に講義科目群（特論）を配置し、選択履修させることにより、生物環境化学、動

植物健康化学、微生物化学に関連する専門領域の学問について、高度で最先端の知識を修得させる。専攻共通科目に「農林海洋科学総論」を必修科目として配置し、農学・海洋科学の連携による研究事例とその成果を理解させる。

[思考・判断]

専門科目に演習科目群（演習Ⅰ～Ⅳ）を配置し、最新の研究論文等を教材として用い少数で密度の高いディスカッションを行わせることにより、検討すべき諸問題とその対策について、論理的に考察する能力を涵養する。専攻共通科目に「海洋・陸域の環境と資源の科学」、「実践里海再生学特論」を必修科目として配置し、農学・海洋科学の諸分野の連携も視野に含めた論理的な考察をする能力を涵養する。

[関心・意欲]

必修の専攻共通科目である「海洋・陸域の環境と資源の科学」、「実践里海再生学特論」において、農学と海洋科学の連携に関心を持たせ、生物環境化学、動植物健康化学、微生物化学に関連する専門領域における課題解決に応用する意欲を持たせる。

[態度]

必修の専攻共通科目である「農林海洋科学総論」及び「農林海洋科学特別研究Ⅰ・Ⅲ」において、研究者倫理に関する授業を実施し、高い倫理意識のもとに、修士論文研究を遂行する態度を育む。

[技能・表現]

専攻共通科目に「農林海洋科学特別研究Ⅰ～Ⅳ」を必修科目として配置し、コミュニケーション能力を育成する。また、コース専門科目に実験科目群を設定し、生物環境化学、動植物健康化学、微生物化学に関連する専門領域の課題に取り組むにあたり必要となる技術を重点的に修得させる。

【教育方法】

(科目履修)

高度な専門的知識を修得するとともに、論理的思考や表現力を涵養するために、講義科目、実験、演習形式の授業を行う。

(研究指導)

複数指導教員制のもと、1年間の研究計画に基づいてその進捗状況等を把握し、学生が自発的に研究に取り組めるための指導を行う。

【教育評価】

(学修評価)

学修の評価にあたっては、本学が定める成績評価基準に基づいて評価を行う。各科目の学修成果は、授業科目の到達目標の達成度をシラバスに記載されている評価方法によって、筆記試験、レポート、発表、授業への参加度、演習・実験成果等で評価を行う。

修士論文の評価について、本専攻の論文審査規定に基づいて評価を行う。学位の授与にあたっては、学位授与の方針に基づき、論文審査（課題設定、先行研究の検討、適切な研究方法、独創性、研究倫理の履行等の観点からの評価）、関連科目の到達度評価、最終試験（筆記あるいは口述）により総合的に評価する。

（カリキュラム評価）

学生の学修成果や専門領域の研究動向、学外からの評価、意見を参照しつつ、毎年カリキュラム評価を実施し、必要に応じて改善を行う。

■海洋資源科学コース

【教育内容】

専門領域の高度な知識・技能を習得するための概論、共通科目を配置するとともに、修士論文作成のための研究指導を行う。

〔知識・理解〕

専門科目に講義科目群（特論）を配置し、選択履修させることにより、海洋生物生産学、海底資源環境学、海洋生命科学に関連する専門分野の学問について、高度で最先端の知識を修得させる。専攻共通科目に「農林海洋科学総論」を必修科目として配置し、農学・海洋科学の連携による研究事例とその成果を理解させる。さらに、コース専門科目に「持続可能な水産生物資源の生産と活用」、「海底資源学序論」、「海洋生命科学序論」を必修科目として配置し、海洋に関する総合的な知識を与える。

〔思考・判断〕

専門科目に演習科目群（演習Ⅰ～Ⅳ）を配置し、最新の研究論文等を教材として用い少数で密度の高いディスカッションを行わせることにより、検討すべき諸問題とその対策について、論理的に考察する能力を涵養する。専攻共通科目に「海洋・陸域の環境と資源の科学」、「実践里海再生学特論」を必修科目として配置し、農学・海洋科学の諸分野の連携も視野に含めた論理的な考察をする能力を涵養する。

〔関心・意欲〕

必修の専攻共通科目である「海洋・陸域の環境と資源の科学」、「実践里海再生学特論」において、農学と海洋科学の連携に関心を持たせ、海洋生物生産学、海底資源環境学、海洋生命科学に関連する専門領域における課題解決に応用する意欲を持たせる。

〔態度〕

必修の専攻共通科目である「農林海洋科学総論」及び「農林海洋科学特別研究Ⅰ・Ⅲ」において、研究者倫理に関する授業を実施し、高い倫理意識のもとに、修士論文研究を遂行する態度を育む。

〔技能・表現〕

専攻共通科目に「農林海洋科学特別研究Ⅰ～Ⅳ」を必修科目として配置し、コミュニケーション能力を育成するとともに、海洋生物生産学、海底資源環境学、海洋生命科学に関連す

る専門領域の課題に取り組むにあたり必要となる技術を修得させる。

【教育方法】

(科目履修)

高度な専門的知識を修得するとともに、論理的思考や表現力を涵養するために、講義科目、演習形式の授業を行う。

(研究指導)

複数指導教員制のもと、1年間の研究計画に基づいてその進捗状況等を把握し、学生が自発的に研究に取り組めるための指導を行う。

【教育評価】

(学修評価)

学修の評価にあたっては、本学が定める成績評価基準に基づいて評価を行う。各科目の学修成果は、授業科目の到達目標の達成度をシラバスに記載されている評価方法によって、筆記試験、レポート、発表、授業への参加度、演習・実験成果等で評価を行う。

修士論文の評価について、本専攻の論文審査規定に基づいて評価を行う。学位の授与にあたっては、学位授与の方針に基づき、論文審査（課題設定、先行研究の検討、適切な研究方法、独創性、研究倫理の履行等の観点からの評価）、関連科目の到達度評価、最終試験（筆記あるいは口述）により総合的に評価する。

(カリキュラム評価)

学生の学修成果や専門領域の研究動向、学外からの評価、意見を参照しつつ、毎年カリキュラム評価を実施し、必要に応じて改善を行う。